

## 海外の話題

# 北京の中関村創業街

農林中央金庫 北京駐在員事務所長 森下 純也

5月上旬、李克強中国共産党中央政治局常務委員・国務院総理が北京中関村（日本語では「ちゅうかんそん」と呼ばれる）所在の中国科学院物理研究所と創業街を視察したとの報道がなされた。李克強総理は、研究所の超電導実験室と電子顕微鏡実験室にて研究開発に関する報告を受けた後、中関村創業街のコーヒーショップに立ち寄って創業者達と交流し、国民の起業やイノベーションを政府がサポートする必要性を語ったと言われる。

中関村は北京市内の西北に広がる海淀区の一角を占め、IT関連企業や大学・研究所が多数集積しているため、「中国のシリコンバレー」と呼ばれている。中関村は元々、北京大学、清華大学等の高等教育機関や研究所が集まる地区として知られていたが、改革開放政策が推し進められた1980年代に、大学や研究所を母体とした電機関連企業が次々と設立された。1988年、こうした動きを後押しするため、政府は中国初となる国家級ハイテク産業パークを中関村に設立。その後も中国IT企業の急成長や活発な外資系企業の進出が続いたため、中関村は成長を継続。中関村サイエンスパーク所在企業の13年売上高合計は60兆円余りに達している。また中国全土の毎年の創業投資の約三分之一を占める等、起業家育成の中心地としての役割も依然として果たしている。

6月中旬のある夜、創業街に立ち寄ってみた。元々は書籍卸売店が集まっていた通りに昨年新たに造られた創業街は、ちょうど1周年を迎えたばかりであった。南北約数百メートルの歩行者専用道路の両側に低層店舗スペースが広がり、コーヒーショップやレストランに加えて、創業投資を行う運用会社、実際に起業した店舗等が整然と入居している。まだまだ新しく清潔感のある通りを車を気にせず歩ける事に加え、北京には珍しく雨が続いた後の綺麗な大空を見渡せる事もあり、歩いていて大変気持ちの良い通りであった。李克強総理が立ち寄ったコーヒーショップは、メニュー等はごく一般的であるものの、テーブルとテーブルの間が広く取ってあるため、周囲をあまり気にしなくてすむ作りになっている事と成功した創業家であろう大きな個人写真が何枚も飾られているのが印象的であった。

創業家の卵達が仲間との話し合いや商談を行う場所を提供するにしても、創業街の中にコーヒーショップが多過ぎると感じたため後で調べたところ、創業企業への投融资や創業支援を行うプラットフォームとして、多数の出資者によって設立されており、コーヒーショップはあくまでも事業の一部との事であった。

中国のイノベーション力については、現段階では独創性が少ないとの意見もあるが、政府の強いサポートもあり、その実力が徐々に高まっているのは事実であろう。新常态下の中国経済は、第二次産業よりも第三次産業の比率が高く、投資ではなく消費が牽引する社会となる事に加え、イノベーションによって新たな成長ステージに入る事が期待されている。今後も中国におけるイノベーションを生かした創業の動きが注目される。